

新刊図書のご案内

男女共同参画センターでは本の貸出を行っています。お1人様2週間2冊まで。ご利用お待ちしております。

小さいのちのドアを開けて

著者：永原 郁子・西尾 和子

漫画：のだ ますみ



「小さいのちのドア」は、胎児や赤ちゃん、そして女性のいのちを守る場所です。「小さいのちのドア」では、思いがけない妊娠や、育児が困難で育てる事が出来ないと追い詰められた女性からの相談を、24時間体制で電話やメール、LINE、来所を通じて受けています。この本には、思いがけない妊娠をめぐる6人の選択が漫画とエッセイで書いてあります。この本を読んで、いのちについて考えてみませんか？

人生は攻略できる

リスパ思考の成功法則

著者：橘 玲

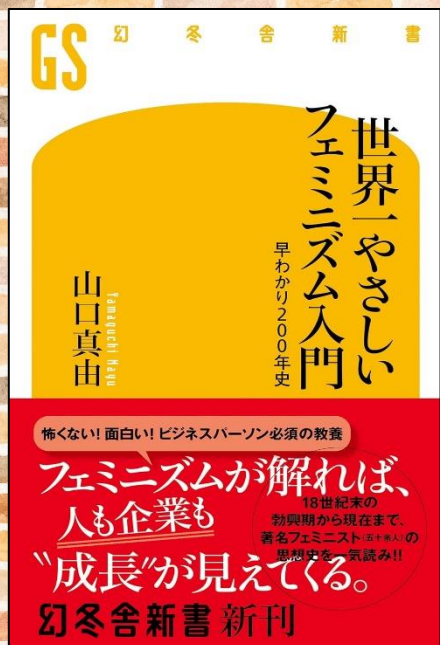


～人生はゲームだ。人生に必勝法はないけれど、ゲームと同じように「やった方がいいこと」や、「やってはいけないこと」がある。いい大学に入り、大きな会社で定年まで働く、お父さんやお母さん世代の人生ゲームの必勝法は役に立たなくなった。ゲームを攻略する戦略は、「失敗してもいいリスクを取って試行錯誤しながら経験値を上げていくこと」である。～

分かりやすい言葉で書かれており、若い方や学生の方に読んでいただきたい本です。人生というゲームのゴールは幸福になること、積極的に攻略してみませんか？

世界一やさしいフェミニズム入門
早わかり200年史
著者：山口 真由

わかりやすく様々なフェミニズム思想が歴史的背景や変遷を踏まえて書かれている本です。「世界各地で様々な背景を抱えた人々が、ジェンダーやセクシャリティに関わる現状を変えようという熱意を行動に移した瞬間の集合体がフェミニズムであるなら、この集積の内部には様々な次元の相違が存在する。」という文章が強く印象に残りました。日本のフェミニズムは常に、母性が中核として語られるものであるとの指摘は、これまで感じていた西洋的なフェミニズムに対する違和感への答えであると思います。



男性の性暴力被害
著者：宮崎 浩一
西岡 真由美

様々な事件が報道されるようになり、男性の性暴力被害の深刻さが社会で認識されるようになりました。「男は強くあれ」「男は感情を出してはいけない、出していいのは怒りだけ」「据え膳食わぬは男の恥」などの「男らしさ」にまつわる社会の暗黙の了解が男性の性暴力被害を見えないものしています。この本では被害の実態や心身にどのような影響があるのか、被害を受けた後、いかに生き延びることができるのか、周りの人はどう寄り添えるのかについて述べられています。



定年オヤジ改造計画

著者：垣谷 美雨



この本を読んで、仕事と家事と育児に追われていた頃を思い出しました。定年退職後は、悠悠自適な老後を夢見ていた主人公の崖っぴちオヤジ常雄が、人生初の孫の子守を通じて離婚回避と家族再生に挑む物語です。定年間近の男性の皆さん、あなたは大丈夫ですか？不安のある方は、まずこの本で奥様の気持ちを理解してみませんか？取返しがつかなくなる前に・・・全ての男性に読んで頂きたい本です。

発達障害の人が見ている世界

著者：岩瀬 利郎



発達障害とは脳の特性であり、発達障害の特性を持つ人と、そうでない定型発達の人とでは、物事の受け止め方、感じ方が、かなり異なるということがわかってきました。

この本では、発達障害の人が見ている世界を紹介し、発達障害の人の生きづらさと周囲の人の困りごとが、少しでも緩和される方法が書かれています。脳の特性・傾向からくる困りごとを解決するツールとして、この本を活用してください。